

明治廿九年當年の聚落

明治廿九年の聚落の移動

明治廿九年の聚落の移動の計画地

昭和八年の移動の聚落

何故に折角移った村が原地に復歸するか

我々は津浪直後に、
惨害記録と哀話のみ綴っているべきではない

村人自身が永い調査研究を遂げるのでなかったら、
真の災害救助、村々の振興等遂げられる筈はない



「世界津波の日」に

山口弥一郎『津浪と村』

を読み直す



日時 令和3年11月5日(金) 13:30~15:00

場所 福島県立博物館 講堂 **定員** 会場100名(申込不要)
オンライン100名(要申込)
※いずれも先着順

講師 内山大介(当館学芸員)

福島県の会津に生まれ、明治29年と昭和8年の2度の津波の後に被災地の三陸を歩いた山口弥一郎。本講座では、東日本大震災の後に注目された著書『津浪と村』を改めて読み直しながら、その仕事の重要性と現代にまでつながる意義を考えます。

本講座はZOOMによるオンラインライブ配信を行います。(後日の視聴はできません)
視聴ご希望の方は件名に「震災遺産講座視聴希望」、本文に氏名・メールアドレス・所属(任意)をご記入の上、general-museum@fcs.ed.jpまでメールでお申込み下さい。
後日、Zoom ID・パスコード等をご連絡します。【申込締切10月31日(日)】

※11月5日は2015年に国連総会で「世界津波の日」に定められました。1854年の安政南海地震での逸話「稲むらの火」の故事にちなんだものです。